

2年1組 道徳学習指導案

1. 主題構成表

主題名 はたらくことのよさをかんじて

資料名 もりのゆうびんやさん 出典:(わたしたちの道徳)

■内容項目 C- (12) 勤労、公共の精神

- (低) 働くことのよさを知り、みんなのために働くこと。
(中) 働くことの大切さを知り、進んでみんなのために働くこと。

■価値の分析

- 働くことのよさを感じるとは、一生懸命働くことが、人の役に立ち、自分も満足感や達成感を味わえるということである。
- 低学年の児童は、何事にも興味をもって生き生きと活動し、みんなのために働くことを楽しく感じている児童が多い。そのような実態を生かし、自分たちが行った仕事はみんなの役に立つことのうれしさ、やりがい、そのことを通して自分の成長などを感じられるようにすることが大切である。
- この段階の児童には、学級の清掃や給食などの当番活動、学級生活の充実に向けた係活動、家庭や地域社会での決められた仕事など、みんなのために役立とうとする意欲や態度に結びつけていきたい。また、主人公の働く姿を考えることで、自分で周りの人の喜びになっているということに気付き、進んでみんなのために働こうとする心情を育てたい。

■内容項目から見た児童の実態(意識)

- どんな仕事にも、一生懸命取り組みたいと考える児童が多い。
- 自分が進んで働くことが人の役に立ち、それが喜びになるという意識をもつ子は少ない。
- つらくて面倒な仕事を、やろうとしない児童や、自分のやりたいことを優先して途中で仕事を投げ出す児童もいる。

■要因

- 一生懸命働いたことでみんなの役に立つことが、自分の喜びになるという価値への理解が不足している。
- つらくて面倒なことでもやりきって満足感を得た経験が、不足している。

■資料の分析

- 本資料は、郵便を配達するくまさんが、郵便物を届ける様子を通して、勤労のよさについて考える話である。くまさんは、いつも声をかけながら、一軒一軒丁寧に郵便物を届けていた。ある日、雪の日にも関わらず、山道を登ってやぎじいさんの家まで小包を届けた。孫からのプレゼントをもらったやぎじいさんは、とてもうれしそうであった。その日家に帰ると、もりのこりすから感謝を伝える手紙が届いていた。
- 一軒一軒声をかけながら手紙を配達するくまさんの気持ちを考えさせることで、自分の決められた仕事以上に人のために働こうという気持ちを捉えさせる。
- 雪の日に山の上に家があるやぎじいさんにていねいに小包を渡したくまさんの気持ちを考えることを通して、おじいさんの喜びを大切にしていっていることが自分のやりがいにつながっていることに気付くことができる。

■ねらい

くまさんの一生懸命に働く姿を考えることで、みんなの役に立っているということや、自分や周りの人の喜びになっているということに気付き、進んでみんなのために働こうとする心情を育てる。

■他の教育活動との関連

■朝の会、帰りの会 日直、係活動、掃除、給食当番などの活動の中で、みんなのために一生懸命働いた姿を、教師の話や児童のよいこと見つけを通して価値付ける。

■事前 国語「どうぶつ園のじゅうい」
主人公の獣医が、自分の役割以上に、動物や飼育員のために一生懸命働いている姿を読み取り、人のために働くことの喜びやそのやりがいに気付かせる。

■本時
「もりのゆう
びんやさん」

■事後 学活〈2学期の中間振り返り〉
学校生活の中で、自分が一生懸命働いてきたことで人の役に立ったことをふり返る。また、人の役に立つことで感じた喜びについても考えさせる。

■「私たちの道徳」の活用(授業前・授業中・授業後・活用しない)
(活用の仕方) 本時の資料として活用する。(P134～P137)

2. 学習指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	指導・援助
導入	◇価値に関わる自分の感じ方・考え方を意識する。 ○学校や家庭、地域でする仕事は、どんなことがありますか。 ・係活動 ・給食当番、掃除 ・家のお手伝い ・地域の清掃活動	・自分の勤労に対する意識を想起させ、本時のねらいとする価値への方向付けをする。
展開前段	◇資料「もりのゆうびんやさん」を読んで話し合う。 ◇感想を交流する。 ・毎日声をかけながら郵便を届けているくまさんはすごいな。 ・雪の日でもおじいさんのために届けるくまさんはすごいな。 ・森のこりすからもらった手紙がうれしかった気持ちが分かるなと思いました。 ○一軒一軒声をかけながら手紙や荷物を配達しているくまさんはどんな気持ちでしょう。 ・仕事だから頑張ろう。 ・みんなのものだから一つ一つ丁寧に配ろう。 ・みんなが喜んでくれるから頑張ろう。 ◎かばんから小包をていねいに出してやぎじいさんに渡したくまさんはどんな気持ちでしょう。 ・つかれたけどここまでできてよかったな。 ・大切に届けられてよかったな。 ・やぎじいさんが喜んでくれるといいな。 深めの発問 ○雪が止んでからでもいいんじゃないかな。 ・やぎじいさんは早く届いた方がうれしいだろうな。 ・お孫さんからだから、早く届けてあげたいな。 ○もりのこりすからの手紙を読んだ後、どんな気持ちだったでしょう。 ・みんなのために一生懸命働いてよかったな。 ・明日からもみんなのために頑張ろう。 ・みんなのために他にどんなことができるかな。 みんなのために進んで働くとみんなも自分もうれしい	・資料を聞きながら、主人公の気持ちについて「分かる」「すごい」「どうして」と思ったところを見つける。 ・感想を整理しながら板書し、場面の状況を把握できるようにする。 ・自分の決められた仕事の他にも、郵便が無い日でも森のみんなと話をしたり他のみんなの様子を伝えたりしているくまさんの様子をおさえる。 ・雪が降っているのに山の上にあるやぎじいさんの家まで行く様子を動作化することを通して、再度場面の様子をしっかりとつかませて、くまさんの気持ちを考えさせる。 ・やぎじいさんのために、雪山を登ってきたくまさんの気持ちを役割演技を通して考えることで、くまさんがいつでも誰にでも丁寧に配達していることに気付かせる。 ・「雪が止んでからでもいいんじゃないかな」と発問することで、自分の苦労よりも、やぎじいさんの喜びを大切にして働いたくまさんの気持ちを捉えさせる。 ・こりすからの手紙を読んだ後のくまさんの気持ちを考えることで、みんなのために働くことが充実感や、周りの人の喜びにつながっているということに気付かせ、価値を深める。 ※進んで働くことがみんなの役に立ち、それが自分の喜びでもあることに気付けるようにする。
展開後段	◇本時の価値に照らして、自分の生活を振り返る。 ○くまさんのように精一杯働くことに喜びを感じたことがありますか。またその時どんな気持ちになりましたか。 ・僕は、そうじの時間一生懸命そうじをしています。この間通りかかった先生に「とってもきれいで気持ちいいよ。ありがとう。」と言われとてもうれしくなりました。これからも全校のみんなが朝から気持ちよくなるようにきれいにしたいです。	・学校や家庭、地域での価値適用の場面を想起できるように「私たちの道徳」のp130、131の写真等を提示する。 ・高まってきた自分を見つめられるようにノートをふり返るよう働きかける。 ・これからどのように生活していくのかも考えさせるようにする。
終末	◇価値に沿って高まっている児童の姿を紹介する。	・毎日放課後学級のために教室整備を行う児童を紹介し、今後の実践意欲を高める。

※人権教育の観点